

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学 期
自己発見	2単位 日本を知る	日本の歴史Ⅱ	高山有紀	1年次	秋

授業のキーワード	精神史、文化芸能、信仰
授業の概要・目的 及び修得させる知識・技能	歴史の形成に影響力をもちとみられる、いくつかの思想を扱います。多様な「ものの考え方」があることを知り、人間の生き方、社会のあり方について幅広い視野を持つことができるようになります。
履修のアドバイス・ 前提科目等	本講では主として思想史や文化史、「日本の歴史Ⅰ」では歴史全般を扱います。『日本の歴史Ⅰ』を履修していなくても問題ありません。

授 業 展 開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	はじめに	授業の進め方を説明します。日本史の学習体験に関するアンケートを行います。	第9講	年中行事③	年中行事にあらわれる思想について概観します。
第2講	死生観①	桜の花と関わりのある「死生観」の歴史について学びます。	第10講	歴史観①	古代から近世の史料にみる「歴史観」について学びます。
第3講	死生観②	浄土思想と「死生観」のかかわり、その歴史について学びます。	第11講	歴史観②	古代から近世の史料にみる「歴史観」について学びます。
第4講	死生観③	武士思想における「死生観」の変遷について学びます。	第12講	歴史観③	近代以降の「歴史観」を戦争との関わりの中から学びます。
第5講	死生観④	近代以降の日本人の死生観の変化について学びます。	第13講	歴史観④	近代以降の「歴史観」を歴史学習との関わりの中から学びます。
第6講	年中行事①	年中行事にあらわれる「神仏」と、その背景にある思想について学びます。	第14講	まとめ	第9講から13講の学習内容を補足し、総括します。
第7講	年中行事②	年中行事にあらわれる「神仏」と、その背景にある思想について学びます。	第15講	試験	
第8講	中間のまとめ	第2講から7講までの学習内容を補足し、総括します。	評 価 方 法		授業への取り組み30パーセント、試験70パーセント。
備 考 (関連する資格・試験等)					
使用する教科書 (必ず購入してください)			参 考 文 献		
教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。			大隅和雄『日本の文化をよみなおす』(吉川弘文館) 五来重『日本人の地獄と極楽』(人文書院) 今井淳、小澤富夫編『日本思想論争史』(ぺりかん社)		